浅野應輔　浅野応輔

あさの・おうすけ　あさの・おうすけ

電気工学者、工学博士、
東京帝国大学教授、早稲田大学教授、
従三位勲二等瑞宝章

経　歴		
生:安政6年(1859年)3月8日、岡山県倉敷市茶屋町生まれ		
没:昭和15年(1940年)9月23日、享年82歳、東京多摩墓地に葬る		
文久2年(1862年)	4歳	父を亡くす
文久2年(1862年)	4歳	福山で医師をしている伯父・浅野玄岱の養子となる
明治初期	10歳前後	誠之館で修学
明治14年(1881年)	22歳	工部大学校電気工学科(現東京大学工学部)卒＜第3期＞
明治14年(1881年)	22歳	工部大学校教官
明治15年(1882年)	23歳	工部大学校助教授
明治20年(1887年)	28歳	東京電信学校長兼幹事
明治24年(1891年)	32歳	逓信省電務局電気試験所(現電子技術総合研究所)所長＜初代＞
明治26年(1893年)12月～28年(1895年)	34～36歳	欧米各国へ派遣される
―	―	東京市区改正委員会の嘱託を受け、電気事業調査に従事
明治30年(1897年)	38歳	九州(大隅)・台湾間海底電信線＜1400km＞の工事設計および敷設竣工
？～大正3年(1914年)11月30日	？～55歳	逓信技師
―	―	電気試験所所長
明治32年(1899年)～大正3年(1914年)11月30日	40～55歳	東京帝国大学工科大学(現東京大学工学部)教授、工学博士
明治36年(1903年)	44歳	無線通信用水銀検波器を発明
明治43年1910年)	51歳	ドイツの星章付王冠二等勲章
―	―	早稲田大学理工科教授
大正2年(1913年)12月	54歳	勲二等瑞宝章
大正3年(1914年)12月28日	55歳	従三位
大正5年(1916年)9月	57歳	早稲田大学理工科科長

大正9年(1920年)4月～10年(1921年)10月	61～62歳	早稲田大学理工学部学部長

生い立ちと学業、業績

岡山県倉敷市茶屋町において、医師大野意俊の三男として生まれる。
4歳の時に父を失い、伯父浅野玄岱の養子となる。

工部大学校卒業後、同年同大学校教官を経て、明治20年(1887年)東京電信学校長兼幹事となり、次いで帝国大学工科大学(現東京大学工学部)教授に嘱託された〈当時は帝大が一つしかなかったので「東京」はついてなかった〉。

明治24年(1891年)逓信省電務局電気試験所(現電子技術総合研究所)の初代所長に転じ、明治26年(1893年)12月欧米の電気事業調査のため欧米各国へ派遣せられ、その途中、近世の大事業である大西洋横断の海底電信線敷設事業に参加した。
明治28年(1895年)帰国し、その後、東京市区改正委員会の嘱託を受け、電気事業調査に従事し、電気事業取締規則を編成した。
続いて、大隅・台湾間(約1400km)の海底電信線の工事設計および敷設に尽力し、明治30年(1897年)竣工にこぎつけ、不朽の名声を博した。
次いで逓信技師に任じ、電気試験所所長となった。

明治36年(1903年)には、自ら発明した受信機で、長崎・台湾間の長距離通信にも成功した。
その後ヨーロッパで開かれた電気・電信関係の国際会議には、日本代表として出席した。
また、万国電気単本位国際会議学術委員、万国電気工芸委員会日本委員会長などを務め、特に海底電信の権威として国際的に活躍した。

一方、東京帝国大学工科大学(現東京大学工学部)教授に再任され、のち早稲田大学理工科教授にもなり、その後両大学の名誉教授となる。
明治32年(1899年)工学博士の学位を受ける。電気倶楽部、永楽倶楽部会員。

明治43年(1910年)無線電信に関する功績で、ドイツ皇帝から星章付王冠二等勲章を贈られ、国内では従三位勲二等に叙せられ、瑞宝章を受章した。
昭和15年(1940年)9月23日没、享年82歳。
東京都多摩墓地に眠る。

次兄は大蔵平三陸軍中将。　　石井和佳(昭和25年卒)

次兄の大蔵平三陸軍中将は、功により男爵となった。
明治期陸軍における騎兵隊生みの親と呼ばれた。

養父となった伯父の浅野玄岱は医師で、明治2年(1869年)に開設された福山同仁館病院においても活動している。
浅野の養子となって、應輔は4歳ごろに福山へ来て成長とともに誠之館に学んだが、その正確な時期や修業内容は残っていない。

浅野応輔には子がなく、阪田貞明の子阪田貞孝が昭和14年(1939年)5月に養子として入家した。
貞孝は昭和15年(1915年)5月に長男応孝(まさたか)をもうけている。

誠之館所蔵品				
管理No.	氏名	名称	制作／発行	日付
05557	工学博士浅野應輔先生伝記編纂会編	『工学博士浅野應輔先生傳』	工学博士浅野應輔先生伝記編纂会	昭和19年

出典1:『工学博士浅野應輔先生傳』、工学博士浅野應輔先生伝記編纂会編刊、昭和19年9月25日
出典2:『岡山県歴史人物事典』、山陽新聞社刊、平成6年
出典3:綴「誠之館時代の出身者」、広島県立福山中学校
出典4:『大正人名辞典Ⅱ下巻』、日本図書センター刊、1992年
出典5:『福山学生会雑誌(第45号)』、63頁、福山学生会事務所編刊、大正4年4月15日

2005年4月18日更新:レイアウト●2006年5月31日更新:タイトル●2007年7月4日更新:経歴・本文・出典●2007年10月4日更新:経歴・本文●2008年7月17日更新:経歴●2009年8月13日更新:氏名・経歴●2010年1月4日更新:写真・経歴・本文・誠之館所蔵品・出典●